# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金　報告書
# Outcome report

| | |
|---|---|
| 計画名 Plan | インド・カルナータカ州における文献収集およびフィールド調査 |
| 氏名 Name | 小島　美月 |
| 研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level | 教育学研究科・教育学環専攻・修士２年 |
| 渡航国 Country | インド |
| 渡航日程 Travel schedule | 2024 年　3 月　7 日　　～　2024 年　3 月　21 日 |

・ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
・写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
・各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
・日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

## 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航の目的は、①日本国内、またオンラインでは入手不可能な文献を収集すること、②インド現地の研究者や学校教育関係者との人的ネットワークを形成することの２点である。報告者は修士論文において、インド各州の初等教育段階における教授言語政策について研究した。博士後期課程に進学後、それをさらに発展させたいと考えている。そこで、博士後期課程の研究で着目しようと考えているカルナータカ州に渡航し、文献収集および人的ネットワークの形成を行った。

## 成果 Outcome

①日本国内、またオンラインでは入手不可能な文献を収集する

本渡航では、マイソール大学の図書館において、インドにおける言語教育および教授言語に関する文献、インド政府によって実施された教育調査の資料、マイソール大学で執筆されたカルナータカ州における言語教育や教授言語について扱った博士論文等を調査、収集した。また、中央インド言語研究所の図書館においても、インドにおける言語教育や教授言語に関する文献や資料を調査、収集した。さらに、カルナータカ州立中央図書館において、インドの教育や言語、言語教育、教授言語に関する文献を調査し、上述した２つの図書館では収集できなかった文献を収集した。

図１ マイソール大学の図書館　報告者撮影

本渡航を通して収集したこれらの文献や資料はいずれも、日本国内、またオンラインでは入手不可能なものである。そのため、これらの文献や資料を調査することで、インドにおける言語教育や教授言語に関する新たなデータを入手できると考える。つまり、日本国内における文献調査やオンラインでの調査のみでは明らかにすることができなかった新たなデータを踏まえて、今後の研究を進めることが可能となる。

②インド現地の研究者や学校教育関係者との人的ネットワークを形成する

本渡航では、中央インド言語研究所において、インドの言語教育について研究を行っている現地の研究者 Sujoy 氏との面談の機会を得た。そこでは、インドの言語教育に関する政策について学ぶとともに、英語やインドの言語に対する考え方、言語教育や教授言語に関する連邦政府と各州政府の方針の違いについて議論した。また、同研究所においてインドの言語について研究を行っている学生との交流の機会を得た。日本に帰国後もオンライン上で交流を続けている。さらに、バンガロールシティ大学国際言語センター長の Jyothi 氏との面談の機会を得た。そこでは、カルナータカ州における言語教育および教授言語について学ぶとともに、インドにおいて外国語を学ぶ学生の考え方について議論した。加えて、インドにおける日本語学習の指導を行っている国際交流基金の村上氏との面談の機会を得た。日本に帰国後、オンラインで実施されている日本語学習の交流会に参加し、インド現地で言語学習に関心をもつ人々との交流を行っている。

図 2 Sujoy 氏　報告者撮影

以上の通り、本渡航を通して、インド現地の研究者や学生との人的ネットワークを形成することができた。これらの人的ネットワークは、現地を訪問し面談の機会を通して得ることが可能となったものであると考える。今後、博士後期課程においてインドの言語教育や教授言語に関する調査や研究を発展させるために、現地における調査や研究の協力を得ることは必要不可欠である。

## 今後の展望 Prospects for the future

報告者は来年度より、博士後期課程に進学する。博士後期課程では、本渡航で得られた成果を踏まえて、インドにおける言語教育や教授言語に関する研究をさらに発展させたいと考えている。修士課程では、日本国内で入手可能な文献やオンライン上のデータを用いて研究を進めていた。しかし、本渡航を通して、インド現地でのみ入手可能な文献や資料が多くあることを実感した。そのため、本渡航で得た文献や資料を精緻に調査することで、自らの研究をさらに発展させるとともに、日本における言語教育や教授言語に関する研究の発展にも貢献していきたいと考えている。また、現地の研究者や学生との議論および交流を通して、現段階では文献上で議論がなされていないような論点について議論し、学ぶことができると実感した。そのため、本渡航で得た人的ネットワークを生かし、今後も積極的に現地での調査、研究を実施していきたいと考えている。